青森県立高等学校教育改革推進計画に関する地区意見交換会
（下北地区）（第３回）概要

日時：平成２９年１月２３日（月）
１４：００～１６：００
場所：プラザホテルむつ　１階　プラザホール

＜出席者＞
委員
遠島　　進 委員、佐藤　桂一 委員、奥島　涼子 委員、越膳　泰彦 委員、
祐川　俊樹 委員、二本柳信行 委員、大見　竜人 委員、佐藤　俊介 委員、
長内喜美穂 委員、阿部　謙一 委員、相馬　俊二 委員（進行役）
オブザーバー
三戸　延聖 県立田名部高等学校長、福士　広司 県立大湊高等学校長、
安達　健夫 県立大間高等学校長、　蝦名　　博 県立むつ工業高等学校長、
川口　晃世 県立むつ養護学校長

１　開会

２　高等学校教育改革推進室長挨拶
佐藤高等学校教育改革推進室長から、挨拶があった。

３　事務局説明及び意見交換
（１）資料１－５「１　下北地区の中学校卒業者数の推移と全日制課程の学級数の見込み」及び「２（１）重点校、拠点校、地域校について」
事務局から、資料１－５及び資料２について説明した。

（２）資料１－５「２（２）委員の意見に基づく学校配置シミュレーション」
事務局から、資料１－５及び資料２について説明した。

①「ア　平成２９年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合」について
委員から、次のような意見があった。

○　期待される効果・更に検討を要する課題等については、資料１－５のとおりだと思う。

②「イ　むつ工業高校を拠点校として配置する場合」について
委員から、次のような意見があった。

○　むつ工業高校を拠点校として配置することのメリットは様々なことが考えられるが、下北地区の学校規模・配置は、大湊高校と川内校舎の教育環境にも配慮しなければならない。

③「ウ　第１期実施計画期間中は、大湊高校とむつ工業高校を統合して新設校を配置し、第２期実施計画期間中に川内校舎を募集停止とする場合」について

委員から、次のような意見があった。

○　川内校舎の存続を望むが、仮に同校舎が募集停止となる場合は、脇野沢地域の中学生の学ぶ権利を保障するため、県教育委員会が主体的に様々な支援を検討してほしい。

　また、大湊高校とむつ工業高校を統合した新設校の設置場所は、どこを想定しているのか。加えて、新設校は１学年６学級というシミュレーションになっているが、総合学科と工業科をそれぞれ何学級とする予定か。

→（事務局）新設校の設置場所について、現時点で言えることは何もないが、一般的には既存施設の利活用等を考慮していくことが考えられる。

　また、新設校の学科構成については、前回までの地区意見交換会で議論されていないため、本日の地区意見交換会で御意見を伺いたいと考えている。

○　新設校の設置場所について、大湊高校の敷地とむつ工業高校の敷地のどちらを活用する予定か。

→（事務局）新設校の設置場所は、生徒の通学環境等を十分に考慮しなければならないと考えている。

○　大湊高校とむつ工業高校の統合は賛成であるが、その理由は３つある。

　１つ目として、大湊高校とむつ工業高校の小規模化を避けることができる。

　２つ目として、新設校の学科構成を総合学科と工業科をそれぞれ３学級とすることにより、大湊高校とむつ工業高校をそれぞれ小規模化した場合に比べ、生徒の進路の選択肢を確保できる。

　３つ目として、大湊高校は、部活動等で特色ある教育活動を展開するとともに進学実績も挙げており、むつ工業高校は、ものづくりや資格取得、就職実績において大きな成果を挙げている。この両校を統合することにより、相乗効果が期待でき、教育環境の更なる充実が図られると考えている。

　また、生徒の通学の利便性を考えると、新設校の設置場所は、むつ工業高校の敷地が優位だと思うし、むつ工業高校の設備を移転させることは多大な経費が必要になると思う。

　新設校をむつ工業高校の敷地に設置し、川内校舎を募集停止とした場合、大湊地域・川内地域から高校がなくなることになることから、脇野沢地域・川内地域の通学環境に配慮しなければならない。

　このシミュレーションでは、川内校舎が第２期で募集停止となっているが、新設校の設置場所によっては同校舎を地域校として配置し、同校舎の募集停止の時期は、入学状況により判断してほしい。

○　当初は、下北地区の学校配置のバランスが良いことから、全ての高校を配置することが良いと思っていたが、学校の小規模化という課題がある。
　公共交通機関の状況を考慮すると、新設校の設置場所は、むつ工業高校の敷地が良いと思う。

○　大湊高校とむつ工業高校の統合は賛成である。ただし、新設校の設置場所は、脇野沢地域の生徒が通学できる場所が良いと思う。

○　中学生の進路の選択肢を確保する観点から、新設校の学科構成は、総合学科と工業科をそれぞれ３学級としてほしい。また、川内校舎は地域校として配置してほしい。
→（事務局）現在、川内校舎は地域校の候補校としていないが、地区意見交換会の議論を踏まえ、検討したい。

○　大湊高校とむつ工業高校の統合は賛成である。川内校舎の募集停止については、様々な方面に説明していくことが必要になると思う。特に、脇野沢地域に対しては、丁寧な対応が求められると考える。
　川内校舎の募集停止については、大湊高校とむつ工業高校の統合に併せて実施してはどうかと考えている。新設校の設置場所の決定や、通学支援の実施とともに、統合の時期について検討してほしい。
　平成２８年度の川内校舎の入学者数は１３名だったが、今後の中学校卒業者数の減少を踏まえると、川内校舎の入学者数が１桁となることも想定されるため、高校教育の質の確保の観点から、できるだけ早く同校舎の募集停止を検討した方が良いと思う。

○　新設校は、工業科の拠点校としてほしい。

○　新設校に関して、総合学科と工業科を併設する学校のアイデンティティーはどのようになるのか。大湊高校とむつ工業高校の統合後の姿がイメージできない。

○　総合学科に関して、他県の参考となる事例を情報提供してほしい。

進行役から、他県の参考事例について、大湊高校長に情報提供を求めた。

○　全国的には、工業の系列を有する総合学科もあるが、あくまで工業に対する興味・関心を高めるためのものであり、工業高校のように資格取得を目指すことは難しい。

委員から、次のような意見があった。

○　大湊高校とむつ工業高校の統合は賛成である。５０人の教員が配置されている高校が２つあるよりも、１００人の教員が配置されている高校が１つある方が、開設科目の自由度が高いと思う。総合学科と工業科が併設される場合、総合学科において工業系の科目を開設することも想定されるため、複数の大学科を有する高校は、非常に有益だと思う。

○　新設校は、工業科の拠点校としてほしい。学科構成としては、総合学科と工業科をそれぞれ３学級としてほしいと考えているが、工業科が３学級でも拠点校として配置することはできるのか。
→（事務局）職業教育を主とする専門学科の拠点校は、一つの専門学科で１学年当たり４学級以上と考えているが、下北地区の重点校のような柔軟な対応も考えられるところである。

○　新設校は、工業科の拠点校とする方向で検討してほしい。

④「エ　第１期実施計画期間中に川内校舎を募集停止とする場合」について

委員から、次のような意見があった。

○　資料１－５の９ページを見ると大湊高校とむつ工業高校の両校が職業教育を主とする専門学科の拠点校となるように見えるが、このシミュレーションにおける大湊高校とむつ工業高校の扱いを確認したい。
→（事務局）このシミュレーションは、委員の意見に基づき、あくまで川内校舎を募集停止とすることのみを前提としたものであり、大湊高校とむつ工業高校は連携校となっている。

○　川内校舎は、生徒数の減少により教員数が少なくなっているため、教員の負担が増加していること、教育課程の柔軟性が失われていることを危惧している。しかし、同校舎は小規模である中、大変良い教育を施していることから、同校舎に対する教員の加配を望む。

○　地区意見交換会の趣旨を確認したいが、資料１－５にある学校配置シミュレーションのいずれかが採用されるということか。

→（事務局）地区意見交換会の趣旨は様々な意見を伺うことであり、１つの学校配置シミュレーションに絞るということは考えていない。地区意見交換会において、様々な学校配置シミュレーションに対する意見をいただき、それらを踏まえ、県教育委員会が第１期実施計画を策定することとしている。

○　地区意見交換会は、中学校卒業者数の減少や通学環境等を考慮し、学校配置を検討しているが、ＩＣＴやＡＩといった技術の急速な進展が考えられることから、１０年先を見越した学校配置を検討することは難しいと思っている。将来は、通学環境等を考慮し、遠隔授業により単位数の半分を認定するといった状況も考えられることから、今後の状況の変化も見据えた上で、実施計画を策定すべきだと考えている。

　また、高校への通学が困難な地域に配慮し、ボーディングスクール（全寮制の学校）を設置するなどの発想が必要だと思う。

（３）資料１－５「２（３）その他の意見」及び「３　定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見」

事務局から、資料１－５及び資料２について説明した。

委員から、次のような意見があった。

○　特別支援教育に関して、特別支援学校には情緒障害という種別がないため、知的障害を伴わない情緒障害がある生徒は、県立高校に進学するしか道はない。情緒障害等の特別な支援を要する生徒に対する高校としての支援体制は、どのように考えているのか。

→（事務局）県立高校における特別支援教育の取組については、第２回地区意見交換会の資料２で情報提供したところであるが、北斗高校・尾上総合高校における国委託事業により取り組んでいるところである。

　また、文部科学省では、平成３０年度から高校での通級指導を制度化する意向である。

　県教育委員会としては、現在取り組んでいる国委託事業の成果を踏まえ、その効果を県全体に波及させたいと考えている。

○　国委託事業は、２年又は３年といった短期間で終わることが想定される。特別な支援を要する生徒は、今後も増えることが予想されるため、国委託事業終了後の対応が各自治体任せとならないよう、十分な支援を望む。

→（事務局）高校以外の取組としては、むつ養護学校において小・中学校の相談に対応しているところである。

進行役から、むつ養護学校長に情報提供を求めた。

○　現在、各特別支援学校では、特別支援教育のセンター的機能を担っているところであり、むつ養護学校では、保育所や幼稚園、小・中学校、高校の個別相談に対応している。

　また、青森県の小・中学校に対する調査から、高校に在籍する生徒のうち、約３％が特別な支援を要する生徒であるという推計もある。

　このことから、高校において、特別な支援を要する生徒に対応した体制づくりを進めることは妥当であり、特別支援学校としても、必要な支援ができるよう協力していきたいと考えている。

委員から、次のような意見があった。

○　田名部高校英語科に関して、進路志望状況調査の志望倍率が１．００倍を下回っていることは、最近の動向ということではなく、私が田名部高校に在職していたときも同様であった。

　当時、英語科を宣伝するために中学校を訪問していたが、その時の中学校長の意見を踏まえ、英語科の志望倍率が１．００倍を下回っていた要因は２つあったと分析していた。１つは、下北地区の中学校において、英語が好きな生徒、英語が得意な生徒が少なかったことであり、もう１つは、中学校卒業時点で普通科と英語科のどちらかを選択することは難しく、英語科は高校卒業後に進学する大学の学部・学科が狭まるという認識があった。

　当時は、高校側として、英語科入学後の姿や卒業後の姿について、中学生や保護者に示すことが必要であり、中学校側として、英語の学力を向上させることと、キャリア教育を充実させることが必要だと感じていた。

　最近の英語科の生徒を見ていると、先ほど述べた英語科の入学後の姿や卒業後の姿を示すことはできていると思う。また、小学校における英語活動の講師役を英語科の生徒が担うなど、英語科ならではの活動をしていると感じている。

　さらに、最近の中学校の生徒を見ていると、どの学校でもキャリア教育に取り組んでいる。県の学習状況調査を見ると、下北地区の英語の学力は、県でも上位に位置している。

　私が田名部高校に在職していた時に課題として感じていたことが、おおむね解決しているにもかかわらず、英語科の志望倍率が１．００倍を下回っているという状況を考慮すると、同学科の在り方を検討しなければならないと思う。

進行役から、地区意見交換会全体を通した意見や感想について、全委員に発言を求めた。

○　高校教育改革に関して、地区意見交換会という地域の意見を丁寧に聞く場を設けていただいたことに感謝する。

　実施計画を策定する際には、地区意見交換会の意見をできる限り斟酌してほしい。

○　地域の意見を丁寧に聞いていただいた。北通り地域に関しては、大間高校が地域校の候補校となっているが、今後、大間高校で様々な課題等が生じた場合も地域の意見を聞いてほしい。

○　中学３年生の保護者の話を聞くと、子どもたちが夢を持って高校を選択できるようにしてほしいという声を耳にする。高校から、中学生に対し、高校の魅力を発信してほしい。

○　以前は、下北地区にも寄宿舎があり、北通り地域からむつ市内の高校に進学する生徒は、かなり救われていたように思う。
　今後は、生徒の通学手段を確保するためにスクールバスの運行等を検討し、高校に進学したいという夢を叶えてほしい。

○　地区意見交換会を通して様々な意見があり、子どもたちや地域のことを考慮した検討がなされたと思う。
　子どもたちの夢が１つでも多く叶うことを願っている。

○　下北地区においては、大学等の高等教育機関がなく、高校を卒業すると、地元で就職する生徒を除きほとんどの生徒がこの地域から巣立っていくこととなる。下北地区の子どもたちの中にも、医師になりたい、世界で活躍したいといった夢を持ち、選抜性の高い大学への進学を希望する子どもがいる。
　そのような子どもたちの夢が経済的な理由等で無くならないよう、むつ市で給付型の奨学金制度を創設するとの新聞報道があったところである。
　私は、地域の人財は地域で育ててほしいと願っている。下北地区は医師不足が大きな問題となっていることから、むつ市の教育政策に加えて、高校に医学部を目指す特別コースを設け、下北地区で活躍する人財を育成していただくことを要望したい。

○　地区意見交換会委員の人選について、個人的には、産業界の意見をより多く聴取するため、産業界のメンバーがもう少し多くても良いと思った。再度、地区意見交換会を開催することがある場合には、その点を考慮してほしい。
　下北地区は、東日本大震災以降、経済が疲弊している状態が続いており、中小企業は、即戦力を求めているので、高校では社会に適応できる人財を育成していかなければならないと思っている。
　高校教育改革を進めるに当たっては、企業のニーズも大事にしてほしいと思った。

○　下北地区の人財を確保する観点から、高校では、地域を愛する人財を育成してほしい。中学生が学力に合わせて高校を選択するということではなく、魅力的な学校をつくり、中学生が希望を持って高校を選択できるようにしてほしい。

○　小学校ではキャリア教育を実施し、子どもたちは将来に向け様々なことを学習しているので、高校は子どもたちが進学したいと思うことができる学校であってほしい。

○　委員として様々な発言をすることができた。また、様々な意見を聞くことができ、勉強になった。

進行役から、事務局に対して今回の地区意見交換会の内容を踏まえ、資料１－５を修正するよう指示があった。また、進行役が、修正内容を確認の上、当地区における主な意見として県教育委員会教育長に報告することについて委員に承諾を求めたところ、異議はなかった。

４　高等学校教育改革推進室長謝辞

佐藤高等学校教育改革推進室長から、謝辞があった。

５　閉会